

親子のためのクラシックコンサート

音楽の絵本

おんがくのえほん



金管五重奏のズーラシアンプラスと弦楽四重奏の弦うさぎ…
動物たちが織りなす不思議なクラシックコンサート「音楽の絵本」の世界へようこそ！

(C)SUPERKIDS

2009年

7月4日 土

開場／午前10:30 開演／午前11:00
終演／午後0:30(予定)

羽村市生涯学習センター
ゆとろぎ 大ホール

〈入場料〉全席指定

おとな 1,500円

こども(0歳児～高校生) 800円



〈授乳室・おむつ交換所・カート置場のご用意があります〉

〈チケット取扱所〉

◆ゆとろぎチケットカウンター(月休) 042-570-0707 ◆羽村市スポーツセンター(月休) 042-555-0033

◆マルフジ各店 羽村・青梅・福生地区 ◆西多摩新聞社チケットサービス 0120-61-3737

主催／羽村市教育委員会 企画・運営／ゆとろぎ協働市民の会
お問合せ／羽村市生涯学習センターゆとろぎ Tel 042-570-0707

『音楽の絵本』はクラシック音楽における絵本のような役割ができれば…と考えられ、そして誕生しました。指揮者のオカビをはじめ、演奏するのは全て希少動物という金管五重奏「ズーラシアンプラス」。そして弦楽四重奏の「弦(つる)うさぎ」。本格的なクラシックから、アニメに童謡まで、動物たちが奏でる多彩な音楽の世界をお楽しみください。子ども達だけではなくお父さんお母さんも、夢の世界へ誘います。

ズーラシアンプラス



指揮:オカビ

オカビは由緒正しい名門ジョンストン家の長男として生まれました。学生時代に書いた論文が新聞や雑誌で評判になるほど、とてもかしこかったオカビは、トントン拍子で学校を卒業。このまま学者になるのか?とまわりは期待していましたが…、オカビは本当に好きな音楽の道にすすむことに決めました。そうして世界のいろんな国をまわって、今のメンバーをみつけ「ズーラシアンプラス」をつくったのです。結成した当初の緊張感がうすれ、好き勝手に暴走しがちなメンバーをまとめなければならぬために、優等生ぶりにもますます磨きがかかる悩めるリーダーです。

トランペット:インドライオン

どんな家族がいるのか、どんなお友達がいるのかは誰も知りません。トランペットを演奏しながら世界の国を旅しているうちに「さすらいのトランペッター」として、まるで伝説のように人々のうわさにのぼっていたのでした。そんな頃オカビに出会い、ズーラシアンプラスに入る決意を決めました。孤独を愛する天才肌…と見せかけていますが、プライドが高く練習する姿をみんなにみせないだけ。本当はとっても努力家です。つげくわえておくと、女の子にはとても、とても、甘いです。

トランペット:ドゥクラングール

大家族の末っ子として生まれ、愛をたっぷり与いこんで、すくすく育ちました。小さい頃「さすらいのトランペッター」の噂をきいて、あまりの格好良さにしびれトランペットをやると決めます。そんなあこがれのインドライオンがズーラシアンプラスに入ると聞いて、オカビにお願いしに行くのでした。素直な明るい性格で、メンバーからも弟のようにかわいがられています。ただ、本人はお兄ちゃんぶりたいので、自分より小さい子が入ってこないかなあと考えています。すぐに緊張してしまうので、そんなときは故郷のお姉ちゃん達からもらった小さなお守りのお人形を握りしめています。誰にもばれていないと本人は思っていますが、他のメンバーはみんな知っています。

ホルン:マーレーバク

とにかく、いつも眠っている印象のあるマーレーバクです。眠っていると、たいていのことを忘れてしまします。ものごころがついた頃には熱帯雨林の森でひとりで暮らしていました。ドゥクラングールに誘われてオカビに会いに行なったことはなんとなく覚えています。ホルンを吹いていないときは眠っているか、どこかで拾ったことわざ辞典を愛読しています。たまに冗談を言おうとしますが、たいがい口に出す前にオチを忘れてしまいます。だけど、マーレーバクはそんなことあんまり気にしません。マイペースなのです。



トロンボーン:スマトラトラ

元王族のおぼっちゃま育ちですが、なぜかがさつでクチが悪いスマトラトラです。ジャズが大好きで、子分のトラを集め「デキシータイガ」というバンドを結成しました。各地でコンサートを開いているうちにだんだん人気が出てきます。そんな頃、噂を聞きつけて訪ねてきたオカビに乗せられて協力を約束し、ズーラシアンプラスに参加することになりました。おだてられるすぐに調子に乗るおれ様キャラですが、意外にあがり症で、コンサートや女性の前に出ると妙にぎこちなくなってしまいます。

チューバ:ホッキョクグマ

家族はみんな演奏者の音楽一家の生まれです。北極でひとりチューバを吹いていました。そんなときオカビのことを知り、思ひ立ってオカビを訪ねます。そして意気投合した二人はともにメンバーを見つける旅に出ることにします。いつもよけいなことはしゃべらず、どっしりとかまえています。クール&無表情なので「怒っている」と相手をびびらせててしまうことも少なくありません。だけどそんなときのホッキョクグマは、意外となにも思っていないからしまします。スキがないやつと、最初はメンバーにも思われていましたが、集合場所を間違えたり、チューバを置き忘れたり、意外とそそかしい面もあわせもっているようです。彼は「冷静」なんじゃなくて「ほんやり」としているだけなんじゃないかとメンバーは思うこともありますが、みんな静かに口を閉ざしています。

トランペット:ゴールデンターキン

ズーラシアンプラスの強力な助っ人です。世界各地のオーケストラで「不思議な助っ人プレイヤー」として活躍していました。そんなところ、オカビの誘いでズーラシアンプラスにもお手伝いに来てくれるようになったようです。彼の生い立ちについては、いろいろな説があるようですが、本当のことは誰も知りません。コンサートにはいつも突然あわられて、終了後はいつも氣づくといなため、彼の性格もよくわかりません。わかっているのは助っ人を頼む場合は、必ずおいしいもの用意しなければならないってことだけなのです。

弦うさぎ (つるうさぎ)



第一バイオリン:メグ

長女のメグは、小さい頃からしっかりもので、近所でも評判の優等生でした。ものごころつかないうちから母親のバイオリンを見よう見まねで弾いてみせ、まわりを驚かせます。音楽が大好きで音楽の有名校をトップの成績で卒業しました。ソロ活動など、お仕事の話も多いけれど、いまは全部ことわっています。作曲家の父とバイオリニストの母が年中演奏旅行に出かけるので、両親が留守のあいだ、一家をきりもりするためです。ひそかに贅沢にも憧れているけれど、それはないしょ。妹たちをまもらなくちゃ、と考えるまじめなお姉さんです。

第二バイオリン:エイミー

末っ子のエイミーは、おしゃべりで、おませで、ちょっとわがままな愛すべき女の子です。自分では十分に大人だと思っているのに、周囲からはいまだに子ども扱いされているのがくやしいところ。みんなのまえできれいなドレスを披露したいために、必死でお姉さんたちを口説き落として「弦うさぎ」のメンバーになりました。だけど、かんじんなドレスはおさがりばかりでちょっとがっかりしています。ズーラシアンプラスのインドライオンにあこがれていることは、うるさいお姉さん達にはひみつです。

ピオラ:ベース

三女のベースは優しい女の子。とっても内気で外に出るのが苦手です。本人は家で静かに本を読んでいるのが何より幸せなので、お姉さんたちの強力な誘いで弦楽四重奏のメンバーになりました。演奏会のたびにかわいそうなくらい緊張してしまい、むりやり押し出されるようにしてステージへむかいます。演奏会に出るのはこれっきりにしよう、といつも思います。だけど、ピオラを手にすると不思議と別人のよう落ち着き、力強い音色を響かせてくれます。やっぱり私は弦楽四重奏やってて良かった、とベースは演奏会のたびに思っています。

チェロ:ジョー

次女ジョーは威勢が良くって元気いっぱい。自分がこう、と思ったら絶対に曲げません。少しがんこでもあります。新しいことを思いつくのも得意です。「弦楽四重奏弦うさぎ」をやろう、といったのもジョーでした。しぶるメグを説得するのは骨が折れましたけど。チェロを始めたのは、お姉さんのメグより大きな楽器が弾きたいという、単純な理由でしたが、持前のパワーを生かすことのできるこの楽器を今ではとっても気に入っています。また何か新しいことがしたいな、と今日も考えているジョーです。